

ヘルスケア分野における新たな取り組み

# 電力データとAIで 高齢者のフレイル リスクを抽出します



CM放映中です

背景・目的

- 「フレイル」とは、日本老年医学会が2014年に提唱した概念で「Frailty(虚弱)」を語源としてつくられた言葉です。要介護でない、しかし、健康でもない、その中間に位置するのがフレイル。身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のことを指します。
- フレイルは早く気づいて適切に対処することで、健康な状態への回復が見込まれます。そのため、近年、健康寿命を延ばす取り組みの中で注目を集めています。
- 一方、フレイルになると自宅に閉じこもりがちになるため、早期に発見したり、働きかけたりすることが難しいことが課題です。



図1 フレイルとは

これまでの取組

- 当社では産官学連携で、自宅に閉じこもりがちになった高齢者の中から、フレイルになった方を発見するため、2020年より三重県東員町にて電力データからフレイルを検知するAIの開発を進めています。
- 2022年5月からは、開発したAIにより検知したフレイル情報が、自治体の介護予防事業のお役に立てることを検証するため、長野県松本市で実証を開始しています。

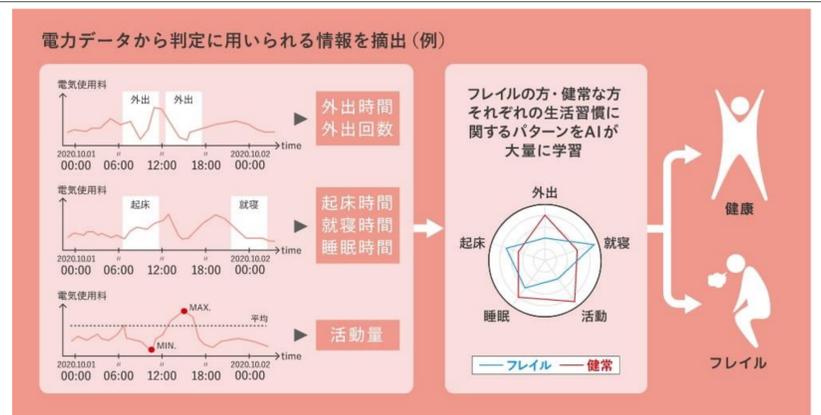


図2 AIによるフレイル判定

用途

- ひとり暮らしの高齢者を対象に本人の同意のもと各世帯のスマートメーターから電力データを取得します。
- そこに暮らす高齢者のフレイルの予兆を検知したら自治体に通知。通知を受けた自治体の専門職員は、フレイルの予兆が検知された高齢者に助言や声掛けをおこないます。



図3 松本市での実証のイメージ

多くの自治体が課題を抱えている介護予防事業分野において、フレイルの検知に留まることなく、検知後の生活習慣の改善や、回復に向けた支援、さらに予防活動まで一体となった包括的な仕組みの構築を目指してまいります。